

はじめに

「褒めると伸びる」は本当？

本書を開いてくださり、ありがとうございます。

工学エデュリエイターの三輪大です。

突然ですが、質問をしてもいいでしょうか？

「お子さんを褒められていますか？」

褒めて自己肯定感を高めるのが時代の主流なので、「今さら何を……」と思われたかもしれませんが。でも、「間違えた褒め方は伸びますよ、下方に」と言う信じてもらえますか？ 先ほどの質問で「はい」と答えた親御さんに2つ目の質問です。

「その後、お子さんはどのように変わりましたか？」

小学生のお子さんを育てていて、子どもはスクスク伸びていますという親御さんは、お子さんが中学生になって成績が低迷すれば、この本を読んでください。なぜ、点数が上がらないのかその理由がわかると思います。

かつて、私も2012年頃は「褒めて子どもを育てる本」の影響を受けて、生徒たちにそのように指導していました。生徒が問題を間違えても「どんまい、どんまい。いい感じで解けているから大丈夫！」と楽しい授業を目指していたので褒めていました。ところが、できる限りベストを尽くしていたのですが、塾生の成績は一向に上がらなかつたのです。当時の塾生には本当に申し訳ない気持ちです。

事実、1万9千時間も生の個別指導を行い、点数の上がない生徒たちと直接対話し、工学的視点からデータ分析し、その原因を明らかにしました。残念なことに巷で正しいと言われていた教え方が間違っていたのです。しかも、日本の先を行くアメリカでは、「自尊心の危険性」が話題になっていることもわかりました。長い間お付き合いいただいた優しい彼女が、突然鬼が変わってしまったぐらいショックでした。

私は褒めるのは絶対にダメだと言いたいわけではありません。対象者と褒め方を間違えると、大切なお子さんの心の土台がグラグラになってしまうということを伝えたいのです。褒めると学力が下がるわけについて、第1章と第2章でエビデンスや具体例も交えてお伝えします。

この本を書こうと思ったのは、このように希望が握りつぶされる悲劇から生徒を救った体験をもとに、同じ悩みを持っている親御さんに助言をしたいと思っただけからです。休日に教育本を読んで、アイデアを考へては、新しい指導法を次から次へと構築していきました。もがきながら授業で試行錯誤した結果、ついに一つの成功法則にたどり着いたのです。それは真剣がキーワードでした。すると、生徒がこのような成績を取れるようになってくれました。

- ・ 中学3年生の数学が1カ月で0点から72点に
- ・ 中学3年生の数学が学年TOP6名の中に3名がランクイン
- ・ 高校1年生の3教科全国偏差値が80に

生徒向けのアンケートで次のような声もいただきました。

- ・キャリアに入って思考力がつきました
- ・E判定から逆転合格ができました
- ・頑張ろう、挑戦しようと思えるようになりました
- ・自分に厳しくなり、勉強の意欲が高まりました

A I時代で使う「非認知スキル」の高める方法

子どもたちが社会に出る10年後の企業はどうなっているのでしょうか？ 生産性の向上を目指したA Iと共存し、人にしかできない仕事をすると言われ、社会が急激に変化していると予想されています。その新時代に必要なスキルを今から教育しようと注目されているのが「非認知スキル」です。

このようなことがあって、非認知スキルを含んだ「社会人基礎力」を身につかせようと試みたことがあります。目標実現手帳を考案し実践したのですが、失敗に終わりました。これで得た教訓は、「生徒自ら気づくことが何より大切だった」ということです。子どもを変えたいのなら子ども自身でなく、まずは環境や仕組みを変えることが戦略的に重要だと考えました。これをきっかけに「仕組みによる教育」

の研究を始めたのです。これついて第3章と第4章でお伝えします。

ダイヤゲームがお子さんの隠し持っている才能の光を放つ！

お子さんの才能の芽が出る土壤が6種類もあることがわかりました。「蒔かぬ種は生えぬ」ということわざがあるように、種を蒔かない限り、いつまで待っても芽は出ません。かといって、種を蒔いても親身になって尽くしてあげればあげるほど、ドンドン悪い結果になる土壤があることもわかりました。

長年の経験で、お子さんの才能の芽を潰すので絶対にしてはいけないこと、反対に才能の芽をグングン伸ばす最高の肥料についても見つけました。ついに、お子さんの才能が芽生え、それを伸ばすための仕組みを開発したので、その作る方法と進め方について第5章と第6章でお伝えします。

前置きはこれくらいにして、褒めるとどんな災いが起こるのか解き明かしてから、「非認知スキル」のような才能の芽を育てる仕組みはどういうものかこれから詳しく説明していきます。

さあ、それでは始めていきましょう！